

● 7月9日（金） 晴 イワオヌプリ 道の駅「ニセコビュープラザ」泊

・あさ目をさますと空はどんよりと曇っていた。このところ天気が安定していない。朝食は納豆巻きに味噌汁、それに煮卵をつけた。やはり和食はいいね。今日は移動日だし天気があまり良くないのでゆっくりと朝食をとって出発した。支笏湖への通り慣れた道をニセコ方面に向けてのんびり走った。ところが支笏湖まで来たらここは晴れている。支笏湖の向こうに恵庭岳がくっきりと聳えて見える。ひょっとするとニセコは天気が良くてニセコアンヌプリに登れるかもしれない、とスピードを上げた。「フォレスト276大滝」に8時半過ぎ、「230ルスト」に9時、「真狩フラワーセンター」に9時半に着いたがこの一帯は天気が良い。今日は移動日の予定だったが急遽予定変更し、山に登ろうと道の駅「ニセコビュープラザ」の前を素通りして五色温泉へと向かった。



五色温泉



イワオヌプリは晴れているが、向いのニセコアンヌプリには雲がかかっていた



・ここはニセコアンヌプリとイワオヌプリ両方の山の登山口になっていて立派な駐車場がある。ニセコアンヌプリの頂上付近は雲に隠れているが、道を挟んで西側のイワオヌプリはすっきりと晴れていて、青空をバックに火山特有の山容を見せている。今日は歩行時間も短いし雲のないイワオヌプリに登ることにした。

はじめのうちはコケモモが咲く
気持ちの良い樹林帯を歩く。→



・10:15に駐車場を出発。10時を過ぎるとやはり雲が湧いてくる。雲の合間から真夏の太陽が差し暑いくらい！大汗をかきながらの登りとなった。初めのうちはコケモモが咲いていて気持ちの良い樹林帯を歩いたが、樹林帯を抜けるとすぐに全く木が生えていない火山特有の火山礫と岩場の登りとなった。山頂近くになると火山砂の斜面で足がズルズルとして歩きにくい。11時半に山頂に着いたが、さっきまで良く晴れていたのに、今はすっかり霧がかかってしまい見晴らしがない。やはり山は早朝に登らないとだめだ。



山頂は霧で視界が無くなった

・晴れていれば噴火口を下に見ながら火口を一周するのだが、霧で何も見えないのですぐ下山した。山頂には3人パーティーが一組いた。お先に失礼してもと来た道を引き返したが、霧にまかれて砂地のトレースがわからず、おまけに標識が全くないので下山口がわからない。どうしよう?! 一瞬の霧の晴れ間にやっとルートを確認し無事下ることが出来た。山頂に置いてきた3人パーティーは良くルートを知っているらしく、私が迷っている間にずっと先を下りている。



霧がかかって下山ルートがわからない

この山は往復2時間ちょっとで簡単に登れる山だが、道標も目印もないし、火山礫で踏み跡が殆どつかないので、霧がかかったら方向がわからなくなる恐ろしい山だった。とにかく無事下山できてよかった。



まず洗濯し、寝具も干した。車は万艦旗状態

・下は晴れていた。駐車場で昼食をとり、汗を流すためニセコ駅前の「綺羅の湯」へ急いだ。ここは私のお気に入りの湯で、今日の湯加減も申し分なかった。ゆっくりと入浴し、今夜泊る道の駅「ニセコビュープラザ」に3時過ぎに着いた。

・真夏の3時の日差しはすごく暑い。

じっとしていても汗が噴き出してくる。まず衣類の洗濯をして、車の中や外に吊り下げて干した。

車の屋根とドアには寝具を広げて干したので、車はまさに万艦旗状態になった。洗濯が一段落したら4時、そろそろ飲み始めるか。ここはEモバイルの電波はOKだ。パソコンを開いてメールをはじめ、次は写真の整理、そして計画の検討などしているうちに日が傾いてきた。真夏の太陽の威力はすごい、先ほどの洗濯物は殆ど乾いてしまった。日がかげるとさすがに涼しくなる。洗濯物を取り込んで夕食にとりかかった。

- ・この道の駅は交通の要所になるのか、広い駐車場なのに何時も満杯で場所を探す車が右往左往している。幸い私は毎年止めているお気に入りの場所に止めることが出来た。
- ・昨年までは夜間トイレは狭くて便器が1個しかなかったが、今年はリニューアルされていて、広く明るくきれいで便器の数も多いトイレになっていた。素晴らしい駅になった。

● 7月10日(土) 曇 昆布岳 道の駅「よってけ島牧」泊

・5時起床。周りには昨夜泊まった車が一杯止まっている。空は曇っているが高曇りで明るく、雨も降っていない。後志羊蹄山もくっきり見えている。

歯を磨き顔を洗いひげを剃って朝食を、今朝も納豆巻きに味噌汁だ。今日はすぐ南の昆布岳に登る予定だ。すぐ南の山だが登山口が山の南側にあるためここからは山の南側へぐるっと回り込まなければならない。6時すぎに道の駅を後にして狭い道をガンガン飛ばして7時過ぎに登山口の駐車場に着いた。



羊蹄山がよく見えている



駐車場には私の1台だけ

・駐車場には車も人もだれもない。支度をして出かけようかと思ったら、パラパラ雨が降ってきた。誰もいなくて寂しいしどうしよう。



昆布岳登山口

しばらく様子を見たが、空は明るいし、たいした雨ではないので思い切って7時半に出発した。



車も走れそうな平坦な小道が延々9合目まで続いている。

・途中に「車を乗り入れるな」と書いた立て札が立っているが、まさに車も走れそうな平坦な道が延々と続いている。1合目、2合目、3合目・・・と朝露に濡れた草を踏み分けて、林に入ったり抜けたりしながら約2時間、熊除けの鈴をジャラジャラ鳴らしながら一人黙々と歩いて9合目へ。ここまでの標高差は僅か500m、殆ど平坦な道だった。時々パラつく雨と、蒸し暑さの汗とで全身びしょ濡れだ。登山道らしい道になったのは9合目から山頂までのほんの500m、一気に標高差150mを登って山頂に出た。



やっと山頂まで来た！



昆布岳山頂

・昆布岳の山頂は、延々と続いた高原の先にぽこんと飛び出した山頂だけに眺めはすばらしい。今日は幸い高曇りなので、北に昨日登ったニセコの山並みとその右に後志羊蹄山が聳えて続き、南には洞爺湖方面の小花井山に



小花井山に 聳えるウインザーホテル

聳えるウインザーホテルが望めるというパノラマが展開した。まあ来て良かった。



北に昨日登ったニセコの山並みとその右に後志羊蹄山のパノラマが展開

・しかし山頂には得体の知れない虫がワンワン乱舞していて、刺さないがまとわり着いてきて閉口した。草々に山頂を後にした。帰り道もまたあの平坦に近い山道を雨に濡れた草を踏み分けながら延々と黙々と2時間近く歩いたが、オトギリソウやヒヨドリソウなどの花も咲いていて楽しませてくれた。エンレイソウは花が終わり実を付けていた。身体は汗で、靴の中は草露でびしょびしょになって12時前に登山口に着いた。今日は土曜日だというのに、山では誰一人会わなかったし、駐車場には私の車だけがぽつんと1台止まっているだけだ。要するに今日登ったのは私一人だったということだ。たしかにひたすら歩くだけの面白くない山だから、よほど物好きなヤツ以外誰も登らないのだろう。でも積雪期は大勢登っているらしい。冬の山なのか。



・天気予報を見ると明日の道南は天気が回復するらしい。天気が良いのなら明日は狩場山に登ってしまおうと決めた。早速狩場山に向けて車を走らせた。豊浦で噴火湾に出て、噴火湾沿いを走り黒松内で内陸に入って横断し日本海へ出て日本海沿いに西に走って島牧へ着いた。ここから狩場山登山口のある賀老高原への道に入る。道の途中で千走川温泉があり、即飛び込んで今日の汗を流した。この温泉は昔ながらのひなびた温泉でなかなか良い、ゆっくり浸かって疲れを癒した。



千走川温泉

・今夜は賀老高原キャンプ場に止まろうと車を走らせ、かなり登ってキャンプ場へ着いた。広いキャンプ場には車が数台ポツンと止まっている。天気もよくないしメチャ寂しい。施設はそれなりに整っているが、トイレは汚いし、携帯も圏外だしどうも泊まる気になれない。水道の設備があったので汗まみれの衣類を洗濯してから山を下り道の駅「よってけ島牧」へ引き返した。とどうだろう！ここ道の駅にも車が全くいない。私の車だけだ。なんという寂しいところだ、今日は土曜日だぞ！

・一人寂しくビールを飲み夕食を始めた。メインは野菜、焼き鳥入りのラーメンだ。時々車の出入りはあるがすぐに出て行ってここに泊まる車の気配はない。今日ここに泊まるのはたぶん私1台だろう。あの賑やかなニセコの道の駅とは月とスッポンの差があるね。でもここはトイレがきれいだし、携帯も繋がるので賀老高原よりはよっぽど良い。明日は朝早くまた賀老高原へ登ってゆこう。草々に床に入った。おやすみ。



寂しい道の駅「よってけ島牧」

*今日は今回の山旅の中で一番寂しい夜を迎えた。

*ところが夜中にトイレに行ったら、なんと6台も泊まっていた。